別紙様式１

令和5年度　学校評価表

（ 中間 ・ 最終 ）

学校名　三原市立幸崎中学校

a 学校教育目標	自ら学ぶ、心豊かな生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 【ビジョン】（自校の将来像）	◎社会のために役立とうとする志を持つ生徒の育成 ◎地域・保護者の期待に応える学校 ◎伝統や文化の継承を軸に成長する学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	幸崎思考力を育み、自律的に学ぶ生徒を育成する。	基礎学力の向上	・家庭学習の習慣化やドリル学習の充実を図り、基礎学力の向上を図る。	・全国学力・学習状況調査及びNRT、実力テストにおいて、全国平均を上回る生徒の割合（R4:63.6%）	65%	54%	53%	82%	B	・1月の実力テストでは、目標に届かなかった。学年別では、1年生：68%、2年生：47%、3年生：40%だった。 ・基礎学力の定着が課題であるが、個別指導の結果が、わずかではあるが効果が出始めている。	・現在取り組んでいる数学の補充学習を継続して取り組むと同時に、基礎学力を徹底する方法を模索し、各教科の学力の底上げをする。 ・次年度から取り入れるモジュールで学習する内容を検討し、個の力を伸ばす工夫を行う。	○			・基礎学力の低迷は、生徒一人一人にとってはもちろんのこと、学びの集団としても大きな課題だと思う。 ・引き続き、個別対応を行い、学力の底上げを図ってほしい。
		幸崎思考力の向上	・シンキングツールの活用や協働的な学習を充実することで授業改善を図る。	・「シンキングツール等を有効に活用し、思考が深まっている」に対して、肯定的評価の割合（R4:69.9%）	75%	73%	63%	84%	B	・教科によって、活用頻度に差はみられる。 ・自由進度学習などを取り組むことができた。生徒に学び方や思考の方法を選択させる機会が増え、意欲的に取り組む姿がみられた。教師が一方的にツールを使用させる段階から次へ段階の過渡期となっていると考えられる。	・今年度作成した活用ガイドの実践編を用いて、活用のレベルアップを図る。 ・自由進度学習、個別最適化の授業との関連を図り、授業研究を進め、校内研修を通して思考力の育成を図る。	○			
		ICTの活用	・ICTの効果的な活用を研修し、授業等において積極的に活用する。	・「授業で、1週間にクロームブックを3日以上利用している」に対して、肯定的評価の割合（R4：66.7%）	70%	80%	85%	121%	A	・教科によって、活用頻度に差はみられるが、教科の特性や指導法に応じた活用が進んでいる。 ・ICTの導入から数年が経ち、生徒も教師も活用に慣れてきた。学習ツールの一つとして定着しつつある。	・「CANVA」等の新しいアプリの有効な活用方法を研修し、より効果的な活用を模索していく。 ・家庭学習や授業にドリルパークを組み込む等、活用の頻度を増やす。	○			・教科によって、活用にばらつきがある。 ・ツールの活用に適切な学習領域とそうでない領域があるということだろうか。
豊かな心・健やかな体	自他を大切にし、ともに成長しようとする生徒を育成する。	自己肯定感の向上	・個々の良さを認め合える授業と行事を通して、居場所のある集団づくりを推進する。	・「自分の良さは周りから認められていると思う」に対して、肯定的評価の割合（R4:73.8%）	75%	72%	72%	96%	B	・日々の授業や学級活動を通して、多様な考え、新たな見方や考え方を受け入れ、一人ひとりの考えや行動のよさを認め合う場が設定されている。 ・自己肯定感が低く、自分自身のことを表現することが苦手な生徒が多い。	・生徒が主体的に活動できる場や経験を増やす。 ・自分の考えや思いを発表する機会を、行事、教科、道徳などの関連性を意識し、計画的かつ意図的に取り入れていく。	○			・基礎学力との関係を理解することができた。 ・自分の思いを発表できる場を引き続き増やしてほしい。
		異学年交流を通して互いに成長しようとする集団の育成	・縦割り班活動の充実を図り、リーダーの育成と自治的集団の質の向上を目指す。	・「小中合同での行事は自らの成長につながっている。」に対して肯定的評価の割合（R4:69.1%）	75%	68%	68%	91%	B	・今年度初めて、小中文化交流を行った。それぞれが取り組んでいる「獅子太鼓」や「幸に輝け」を発表・観賞し、互いの良さや改善点を交流することができた。 ・「みられる」ことが中学生にとって、刺激となるいい機会だった。	・小中の連携を引き続き行う。 ・小中合同行事が、生徒が主体となって活動できるよう行事となるよう、見通しをもって仕組んでいく。	○			・次年度以降も、小中連携を引き続き継続してほしい。
		健康の増進と体力の向上	・基礎トレーニングを充実し、体力・運動能力の向上を図る。	・持久力、柔軟性について3割の生徒が県平均を上回る	80%	持久力58% 柔軟性22%	持久力100% 柔軟性78%	持久力125% 柔軟性97.5%	持久力A 柔軟性B	・持久力について、目標値は達成しているものの、上半期から下半期にかけて低下している生徒もいた。 ・授業内の準備運動で、柔軟運動を継続して取り組むことで、成果はつながった。 ・体力面での課題がある生徒が固定化している。	・授業でのﾍﾟｱｽﾄﾚｯﾁを継続し、力を抜く、息を吐きながら伸ばすなどの声かけをより丁寧に行い、体の動きを意識させる。 ・筋肉が固い状態での運動や、可動域が狭いことによる怪我へのリスクを伝え、必要感を持たせる。 ・運動部所属生徒については、部活動顧問に結果を提示し、練習メニューを考える参考にしてもらう。	○			・今の取り組みを、継続して取り組んでほしい。
信頼される学校	自校に誇りを持ち、地域に信頼される学校づくりの推進を図る。	郷土愛の醸成	・地域や社会と関わりを持ち、自治活動を推進する。	・（郷芸を通して）「自分には良いところがある」に対して、肯定的評価の割合（R4:69.1%）	75%	58%	58%	77%	C	・文化祭での発表に向けて3年生のリーダーを中心に、自主的な練習を仕組むことができた。 ・小中の文化交流を計画し実施した。小学生の発表に刺激を受け、生徒全員が集中して文化祭当日の発表を成功につなげることができた。が、その動きを、自信につなげることが難しい課題がある。	・経験を増やすため、全校（生徒会）や学級の生徒同士のかかわりを増やす取り組みを継続する。 ・2年生がリーダーとなり、引き続き自主的な活動となるよう、丁寧に指導していくとともに、できたことを一つずつ評価することで、生徒の自信につなげていく。	○			・文化祭の発表は生き生きとしていて良かった。肯定的な評価がなぜ低いのか、原因を考える必要がある。
		充実感・達成感に満ちた教育活動と教職員の働き方改革の推進	・行事や活動を見直し、業務改善に取り組む。 ・定時退校日と月別時間外在校時間の縮減（45時間以内）を徹底する。	・時間外勤務45時間以内の職員の割合（R4:77.7%）	80%	73%	94%	118%	A	・定時退校日はほぼ定着した。時間外在校時間も意識して業務に取り組むことができている。 ・見通しをもって動けるよう、引き続き手立てを継続する。	・自身の働き方（リズム）を大切にしながらも、組織的に、ICT機器の活用を含めた業務改善に取り組む。 ・引き続き、定時退校日や時間外在校時間を意識できるよう時程や提示方法等を工夫する。	○			・効率よく業務の遂行に取り組んでほしい。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。